

## モリアオガエル

*Rhacophorus arboreus*



種名

分類

無尾目アオガエル科アオガエル属

俗称

アオガエル(シュレーゲルアオガエルと混称)

形態的な  
特徴

体長はオス5～7cm、メス6～9cm、腹面は白色、背面は黄緑色から暗緑色まで変化する。赤褐色の不規則な斑紋をもつ個体とまったく斑紋のない個体があり、その出現率は地域によって異なる。指先には大きな吸盤がある。シュレーゲルアオガエルとよく似ているが、本種の方がオス・メスとも大きい。また、シュレーゲルアオガエルの目の虹彩は金色であるが、本種の虹彩は赤みがかった。

分布

本州(茨城県を除く)、佐渡島に分布する。日本海側に多い。

繁殖行動

繁殖期は4～7月で、繁殖は池や沼、水田、湿地で行なわれる。オスは水際の樹上や草の根際で「ココッ、ココッ、ココッ、ココココッ」とこもったような声で鳴いてメスを呼ぶ。オスとメスが抱接すると、メスは水辺に突き出した木の枝や湿地の地面に白い泡状の卵塊を産む。卵塊を泡立てながら産むため、他のカエルとくらべて産卵に時間がかかり、この間に複数のオスが抱接することが多い。卵塊には黄色い卵が300個～800個入っており、卵が孵化してくると泡状の卵塊はしだいにくずれ、樹上で孵化した幼生は水中に落下する。その際、水中のイモリなどに捕食されることも多い。5～6cmに成長した幼生は7～9月頃に変態・上陸し、しばらくは岸辺の草や木の葉の上で過ごす。やがて周囲の森林へ分散していく。冬眠は浅い土中、コケの下などで行なわれる。

生息場所

海岸近くの低地から標高2,000m以上の高地にまで分布するが、一般には山地に多く森林に生息する。シュレーゲルアオガエルと同所的に生息することもある。

生息環境への  
配慮事項

本種が生息するためには、産卵のための水域と非繁殖期を過ごす森林が必要であるが、森林伐採等により森林そのものが消失したり、森林を水源とする山間の池沼が干上がってしまうなど、生息環境が悪化し本種の生息に影響が出ている場所もある。産卵場所となる池沼や水田と、生活場所となる周辺の林の連続性が保たれるよう留意が必要である。とくに珍しい種ではないが、樹上に泡状の卵塊を産むことから注目され、市や町の天然記念物に指定され、保護がなされているところが多い。

カテゴリー

準絶滅危惧(NT:新潟県)

引用文献：[http://www.maff.go.jp/nouson/mizu\\_midori/menu/main.html](http://www.maff.go.jp/nouson/mizu_midori/menu/main.html) を改変